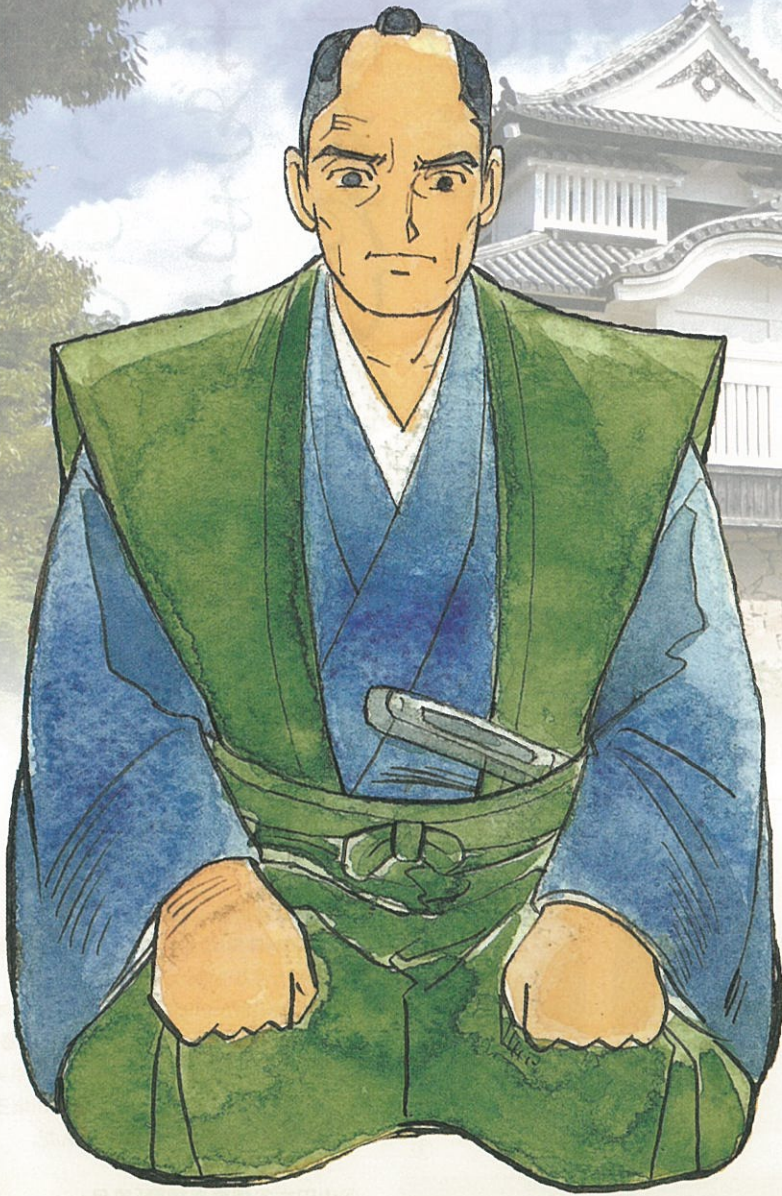


山田方谷没後140年特別展

ほうこく先生が 子どもたちへ 伝えたいこと



2017年 8月5日(土) ≫ 10月29日(日)

- 開館 / 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
- 休館日 / 毎週月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日
- 入館料 / 一般400円、大学・高校生300円、中学・小学生200円

晴れの国カード
HARU NO KUNI
ICOCA
両方使えます!

夏休み “山田方谷クイズ”
特別企画 ～展示を見て「ほうこく先生」を知ろう～

- ◆期間：8月5日(土)～8月31日(木) ◆対象：小学生、中学生
- ◆景品：クイズに挑戦した方へ粗品を進呈
※数量に限りがあります。ご了承ください。



〈関連行事〉

8/26
(土)

講演会「方谷の漢詩について」
時間 / 14:00～15:00
講師 / 奥野新太郎氏
(岡山理科大学教育学部 講師)

9/24
(日)

講演会「山田方谷の人間像」
～声を出して方谷の漢詩を読む～
時間 / 14:00～15:00
講師 / 山田 敦氏(山田方谷 玄孫)

- 会場：吉備路文学館 ■定員：各80名
- 申込方法：電話(086-223-7411)にてお受けいたします。
入館料でご参加いただけます。

*なるべく公共交通機関をご利用ください。詳細は当館までお問い合わせください。

併催

企画展「吉備路の詩歌・川柳・俳句6人展」

尾上 柴舟 竹久 夢二 有本 芳水
西東 三鬼 永瀬 清子 時実 新子

後援：中国銀行、岡山県郷土文化財団、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、高梁市、高梁市教育委員会
(総企・第83号・H29.8.1現在・H29.10.27期限)

吉備路文学館

KIBIJI LITERARY MUSEUM

〒700-0807 岡山市北区南方 3-5-35

TEL(086)223-7411 FAX(086)223-7418 <http://www.kibiji.or.jp>



2017年 8月5日(土) ≫ 10月29日(日)

山田方谷没後140年特別展

ほらこく先生が
子どもたちへ
伝えたいこと



「至誠惻怛」のひとと評せられている山田方谷先生の没後140年にあたり、備中松山藩の藩政改革を成し遂げた功績と、改革に向けた基本的な精神、考え方を、方谷先生が遺した詩(漢詩)を通して、その真髄に迫る。また、今回の展示では、格言めいた詩の数々を小中学生の子どもたちにも分かりやすい平易な文章にすることによって、将来を担う子どもたちへの山田方谷先生からのメッセージとして表現し、子どもたちの学びの場としたい。

やまだ ほうこく
山田 方谷 (1805 ~ 1877)

名は球、字は琳卿、通称は安五郎。方谷は号。

山田家は、もとは武家であったが、方谷の曾祖父山田益昌の時に財産を失い所払いとなった。以後、山田家の再興が当家の悲願となった。方谷は、お家再興を願う父、五朗吉(菜種油の製造・販売を家業とする農商)の子として備中松山藩西方村(現在の岡山県高梁市中井町西方)で生まれる。

5歳になると、新見藩の儒学者である丸川松隠に学ぶ。14歳の時、母が死に、翌年に父も亡くなったため、方谷は松隠の塾を離れ、家業を継いで家計を支えた。父の遺訓を守り家業と学問に精を出し、21歳の時、備中松山藩主板倉勝職から二人扶持を給され、藩校・有終館で学ぶことを許された。その後、藩政にも参加、財政の建て直しに貢献した。幕末の混乱期には苦渋の決断により、藩を滅亡から回避させることに成功した。しかし、明治維新後は多くの招聘の声をすべて断り、教育者として専念し、方谷のもとで学んだ者たちは地元へ戻ってリーダーとなり、政治経済・文化等を牽引した。



①



②



③



④

①山田方谷肖像 小倉魚禾筆(個人蔵)

方谷の肖像画は、小倉魚禾のものと同木政次のものが主なものとして知られる。

小倉魚禾(1876~1957)は高梁市出身の日本画家で、本名を善三郎、魚禾(ぎよか)はその雅号。明治30年(1897)に岡倉天心が校長の東京美術学校(現:東京芸術大学)に入学し、川端玉章(1842~1913)について日本画を学んだ。

②山田方谷揮毫奉納額「風月」(高梁市立高梁小学校蔵)

山田方谷を顕彰して、明治41(1911)年に造園された方谷林公園(高梁市落合町)の岩に刻まれている「風月」のもとになっている。

③山田方谷硯(高梁方谷会蔵)
山田方谷愛用の硯

④長瀬塾復元模型(高梁市歴史美術館蔵)

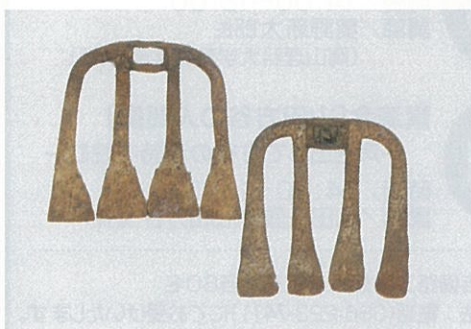
山田方谷の生誕200年にあわせて製作された長瀬塾の模型。近隣だけでなく日本中から塾徒が集まり、塾舎は6棟まで増えた。

⑤備中鍬(岡山県立博物館蔵)

山田方谷は、藩内で採取される砂鉄を利用し、釘や備中鍬を生産。特に備中鍬は、丈夫さと使いやすさで人気を博した。

⑥快風丸模型(個人蔵)

文久2年(1862年)、備中松山藩は米製の大型洋式帆船快風丸を購入した。山田方谷の命を受け購入を担当したのは江戸詰の川田隼江であった。



⑤



⑥

併催

企画展「吉備路の詩歌・川柳・俳句6人展」

尾上 柴舟 竹久 夢二 有本 芳水 西東 三鬼 永瀬 清子 時実 新子

吉備路文学館
KIBIJI LITERARY MUSEUM